

平成 26 年度 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業

(リユースびんを活用し循環型社会を構築する

「めぐる」プロジェクト)

業務成果報告書

2015 年 3 月 6 日

特定非営利活動法人

中部リサイクル運動市民の会

代表理事 永田 秀和

目次

1 業務概要

- (1) 事業の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 事業実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2 実施体制

- (1) 経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 活動趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 構成及びその役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3 事業実施の概要

- (1) 協議会等の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (2) 協働取組カレンダーの作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (3) 取組の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4 評価・分析

- (1) 事業評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (2) 協働取組の促進要因と阻害要因・・・・・・・・・・・・・・ 13

5 総括

- (1) 成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (2) 課題・改善点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (3) 今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

6 添付資料

- (1) 協働取組カレンダー・・・・・・・・・・添付資料 1 ・・・17
- (2) 月報・・・・・・・・・・添付資料 2 ・・・19
- (3) 中期計画・・・・・・・・・・添付資料 3 ・・・27
- (4) 会議資料
 - ア. 協議会議事録・・・・・・・・・・添付資料 4 ・・・29
 - イ. 定例会議事録・・・・・・・・・・添付資料 5 ・・・36
- (5) 勉強会・見学会資料
 - ア. 写真・・・・・・・・・・添付資料 6 ・・・50
 - イ. リユースセミナー&酒蔵見学会資料・・・・・・・・添付資料 7 ・・・53
 - ウ. バスツアー資料・・・・・・・・・・添付資料 8 ・・・61
- (6) 各種イベント資料
 - ア. 写真・・・・・・・・・・添付資料 9 ・・・69
- (7) アンケート結果・・・・・・・・・・添付資料 10 ・・・70

7 製作物

- (1) チラシ・・・・・・・・・・添付資料 11 ・・・73
- (2) パンフレット・・・・・・・・・・添付資料 12 ・・・75
- (3) アンケート用紙・・・・・・・・・・添付資料 13 ・・・77
- (4) リユースセミナー&酒蔵見学会案内チラシ・・・・・・・・添付資料 14 ・・・78
- (5) バスツアー案内チラシ・・・・・・・・・・添付資料 15 ・・・79
- (6) 飲食店での実証実験に関連した資料
 - ア. 飲食店向け事業概要説明資料・・・・・・・・添付資料 16 ・・・80
 - イ. キャンペーン企画提案書・・・・・・・・添付資料 17 ・・・84
 - ウ. 店内掲示ポスター・・・・・・・・・・添付資料 18 ・・・88
 - エ. メニュー表・・・・・・・・・・添付資料 19 ・・・90
- (7) Facebook・・・・・・・・・・添付資料 20 ・・・92

1 業務概要

(1) 事業の目的

- ・地域における課題解決や地域活性化の上で重要な役割を果たしている地域の各主体の活動を支援するため、中間支援組織の体制強化や地域における協力・連携体制の整備等を促進することが重要である。

このため、民間団体、企業、自治体等の異なる主体による協働取組を実証するとともに、中部環境パートナーシップオフィスが設置する「地方支援事務局」の助言を受けつつ協働取組の過程等を明らかにし、協働取組を加速化していくうえでの様々な手法や留意事項等を、協働取組を行おうとする者の参考資料として共有することを目的とする。

(2) 事業の内容

- ア. 協議会の設置・開催（全3回）
- イ. 協働カレンダーの作成
- ウ. 定例会議の（全7回）
- エ. パンレット及びチラシの作成
- オ. 行政（名古屋市）への協力依頼及び参画の呼びかけ
- カ. 事業者へのリユース等取組の参画の呼びかけ（3事業者）
- キ. 消費者へのリユースについて、意義の周知、方法、事例等の紹介及びリユース商品の選択の呼びかけ
- ク. 勉強会及び見学会等の実施（全6回）
- ケ. 瓶リユースのための新たな回収拠点の模索
- コ. Webサイトを活用した情報の発信
- サ. 各種イベントへの参加（全6回）
- シ. リユースに取り組む中で持続可能なビジネスとするための課題と方策の検討
- ス. リユースが人々の日常生活の中に取り込まれるための課題と方策の検討
- セ. 地方支援事務所への月次報告等
- ソ. 3ヵ年の中期計画等の策定
- タ. 連絡会、報告会への参加
- チ. 業務成果報告書の作成

(3) 事業実施期間

- ・平成 26 年 7 月 8 日～平成 27 年 3 月 6 日

2 実施体制

(1) 経緯

- ・名古屋市の第四次一般廃棄物処理基本計画策定にあたり、大学・市民・企業・行政・NPO の連携によるリユースびんの普及を目的としたプロジェクトチームとして 2008 年に「なごや環境大学循環型社会推進チーム・リユースびんプロジェクト」として発足した。
- ・2010 年に、生ごみリサイクルを推進する「なごや環境大学循環型社会推進チーム・おかえりやさいプロジェクト」との連携により、リユースびん普及と食品リサイクル推進をテーマとした地産地消の日本酒「めぐる」をプロデュースし、「めぐるプロジェクト」として現在に至る。

(2) 活動趣旨

この地域の課題として、ごみの最終処分場の逼迫や、個別リサイクル法の施行により、市民によるリサイクル活動はある程度定着したが、3R で優先されるべきリユース活動に対する市民の意識啓発活動が充分になされていない点がある。

また、市民がリユース活動を実践するための社会システムも脆弱である点が挙げられる。

本プロジェクトでは、「めぐる」の普及を通じて、2R を中心としたライフスタイルの提案と、リユース容器入り商品の普及、リユース容器の回収システムの構築を目指す。

(3) 構成及びその役割

氏名	所属	本事業における役割
永田秀和	NPO 法人中部リサイクル運動市民の会	プロジェクト責任者
松野正太郎	名古屋大学大学院環境学研究科 (リユースプロジェクト「めぐる」リーダー)	政策協働部会
伊藤直起	名古屋市環境局減量推進室	政策協働部会
松島春那	名古屋市環境局減量推進室	政策協働部会
星野和平	プロボノ	プロモーション部会
田中克典	プロボノ	プロモーション部会

水谷政夫	(株)水谷酒造	プロモーション部会
神下豊	市民（リユースプロジェクト「めぐる」）	プロモーション部会
木全幹夫	市民（リユースプロジェクト「めぐる」）	プロモーション部会
櫻間依利子	市民（リユースプロジェクト「めぐる」）	プロモーション部会
餌取英樹	(株)リバイブ（おかえりやさいプロジェクト）	プロモーション部会
笠原尚志	(株)中西	プロモーション部会
小島英一郎	(株)小島良太郎商店	プロモーション部会
村平美智代	(株)熊本清掃社	協働堆肥化事業者
道家弘隆	(株)サガミフード	協働飲食事業者

3 事業実施の概要

(1) 協議会の設置・開催

ア. 協議会の開催（全3回）（添付資料4参照）

開催回数	開催年月日	検討事項
第1回	2014年7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業のスケジュール及び内容について ・名古屋市への政策提言について
第2回	2014年8月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・協働取組カレンダーについて ・今後の取り組み内容について
第3回	2015年1月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・さがみ庭での実証実験について ・マルチステークホルダーダイアログについて ・バスツアーについて ・成果報告会について

(2) 協働取組カレンダーの作成（資料添付1参照）

- ・協議会及び定例会において、ステークホルダーのメンバーと協議を行い、協働取組カレンダーを作成した。

(3) 協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施

ア. 定例会議の開催（全7回）（添付資料5参照）

開催回数	開催年月日	検討事項
第1回	2014年8月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査アンケート内容について ・環境デーなごや2014の出展について

		<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店への働きかけについて ・セントレアイベントについて
第2回	2014年9月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境デーなごや2014の準備について ・意識調査アンケート内容について ・飲食店への働きかけについて
第3回	2014年10月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店への提案内容について ・見学会について
第4回	2014年10月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・11月、12月開催予定の見学会について ・ESD国際会議パネル展示について ・サガミフードでの実証実験進捗について
第5回	2014年11月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・リユースセミナー&酒蔵見学会について ・「さがみ庭」キャンペーン内容について
第6回	2014年12月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・「さがみ庭」キャンペーン進捗について ・2月予定の見学会について
第7回	2015年2月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・見学会振り返りについて ・「さがみ庭」キャンペーン進捗について

イ. パンフレット等の作成

- ・主にイベント等（(3)カ(イ)参照）で市民に配布するためのチラシを作成した。（1,000部）（添付資料11参照）
- ・主に本事業で連携をする飲食店で配布するための三つ折パンフレットを作成した。（1,000部）（添付資料12参照）

ウ. 広報・宣伝活動の実施

(ア) 行政への協力依頼及び参画の呼びかけ

- ・名古屋市環境局減量推進室に対して本事業における、政策提言部会への参画を呼びかけ、承諾を得ることができ、ステークホルダーの一員として参画いただいた。
- ・名古屋市の第五次一般廃棄物処理基本計画の策定に合わせ、名古屋市環境局との連携によるリユース活動に関する市民の意識調査を、本事業を通じて実施し、新たに策定される基本計画におけるリユース施策について検討を行った。
(アンケート結果：添付資料10参照)

(イ) 事業者へのリユース等取組と参画の呼びかけ (3 事業者程度)

- ・食品リサイクルや地産地消に積極的に取り組んでいる、地元の飲食チェーンであるサガミフード(株)に対して、本事業への参画を呼びかけ承諾を得ることができ、実証実験の協働実施を行った。
- ・サガミフード(株)と繋がりがあり、愛西市の地場産業である蓮根栽培等産地消の食品製造に力を入れている清水食品(株)の協力を得ることで、スムーズにサガミフード(株)との連携を図ることが可能となった。
- ・「おかえりやさい」プロジェクトに賛同している(株)ナゴヤキャッスルに対し、「めぐる」の紹介を行い、連携の可能性を探った。

(ウ) 消費者へのリユースについて、意義の周知、方法、事例等の紹介及びリユース品の選択の呼びかけ

- ・見学会、体験会 ((3) エ. 参照) 及び、各種イベント ((3) カ. (イ) 参照) への参加を通じて呼びかけを行った。

エ. 勉強会・見学会等の実施 (添付資料 6・7・8 参照)

- ・市民及び、本事業に関わる全てのステークホルダーが、食品リサイクル・びんリユースを推進する仕組みの必要性を実感できる施設見学会及び、セミナー等を全6回開催した。

【テーマ】酒蔵開放&仕込み体験会 (全4回)

【目的】「めぐる」の取り組みに対する理解を深めてもらう場を提供する

【対象】一般市民及びステークホルダー

【開催場所】水谷酒造(株)

開催年月日	内容	参加者数
2014年11月13日	酒蔵での仕込み体験	5名 (ステークホルダー (SH))
2014年11月14日	酒蔵での仕込み体験	4名 (SH)
2014年11月15日	酒蔵での仕込み体験	7名 (SH2名、一般5名)
2014年11月16日	酒蔵での仕込み体験	8名 (SH3名、一般5名)

【テーマ】リユースセミナー&酒蔵見学会 (全1回)

【目的】リユースびんを取り巻く社会状況についての学びの場を提供する

「めぐる」の取り組みに対する理解を深めてもらう場を提供する

【対象】一般市民及びステークホルダー

開催年月日	内容	参加者数
2014年12月13日	・リユースセミナー ・酒蔵見学会	26名（SH10名、一般16名）

【テーマ】「めぐる」の関係施設の見学&酒蔵見学会（全1回）

【目的】「めぐる」の関係施設を見学することで、「食品リサイクル」「びんのリユース・リサイクル」などに関する学びの場を提供する

【対象】一般市民及びステークホルダー

開催年月日	内容	参加者数
2015年2月11日	・びんの中間処理施設見学 ・食品リサイクル施設見学 ・酒蔵見学	42名 (SH13名、一般29名)

オ. 瓶リユースのための新たな回収拠点の模索

- ・これまでのリユースびん普及活動を踏まえ、クローズドマーケットにおけるびんリユースシステムモデルの構築を図るため、本事業に賛同いただける飲食事業者との連携を図り、実証実験を実施した。
- ・具体的には、中部地域を中心に和食・うどん店舗を展開する㈱サガミチェーン※との連携を模索することにより、これまでの取り組みで実現できなかった、リユースびん循環のクローズドモデルの構築を試みた。
- ・具体的には、サガミグループの㈱サガミフードが運営する店舗「さがみ庭御器所店」と「盛賀美（さがみ）桜通本町店」の2店舗での「めぐる」の販売と空きびんのリユースの協力を依頼した。（2015年3月13日～）

※㈱サガミチェーンは、各店舗において食品残渣のリサイクルを実施しており、かつ地産地消についても、2013年に第21回優良外食産業表彰「地産地消部門」で農林水産大臣賞を受賞するなど力を入れている。

カ. 情報の発信

上記ウ～オを実施するために、次により情報を発信する

(ア) Webサイトの活用

- ・Facebookを活用し、各種イベント等の告知を実施した。（添付資料20参照）

(イ) 各種イベントの活用 (全6回) (添付資料9参照)

開催年月日	イベント名	主催者及び会場	実施内容
2014年8月1~31日 2015年3月1~31日	ニッポンを飲もう日本の酒キャンペーン	日本酒造組合中央会 中部国際空港(株) @中部国際空港	めぐる取組紹介 めぐる販売
2014年9月13日	環境デーなごや2014	環境デーなごや実行委員会 @久屋大通公園	リユースびん入り商品(清涼飲料・ビール・めぐる)の紹介及び販売、容器回収
2014年9月20・21日 2015年2月14・15日	愛知県物産展@金山	愛知県商工会連合会 @金山総合駅 コンコース	チラシ及びパンフレット配布 めぐる販売
2014年11月10~12日	ESD 国際会議サイドイベント「見て、知って、考えて行動しよう!みんなの環境ひろば」	名古屋市環境局 @国際会議場 白鳥会場	めぐるプロジェクト紹介パネルの展示

キ. リユースを広めるための課題と方策の検討

(ア) リユースに取り組む中で持続可能なビジネスとするための課題と方策

- ・定例会において検討を行った。
- ・リユース容器入り商品を普及するためには、空容器の回収システムの構築が大きな課題となる。
- ・経営資源の観点の課題を挙げ、方策を検討した。

分類	課題	方策(案)
人	① ビジネスの主体となる組織がなく、経営を担う推進役が不在である。 ② 純米酒「めぐる」製造要員が不足している。	① ビジネスモデルを策定する。新たな事業法人を設立する。 ② 純米酒「めぐる」の販売網の拡大。
物	① 関連企業(ステークホルダー)の商品を流通させているが、自社の範囲に閉	① エンドユーザである消費者(マーケット)を共同で開拓する。

	じている。 ② NPO の協力で賄っている。	② 新たな運営主体に移管する。
金	① 関連団体（ステークホルダー）の事業の範囲で実施している。 ② ボランティアの協力で進めている。	① 設立する事業法人が資金計画を立てる。（黒字化可能な事業であるかを見通した上で） ② 持続可能にするためにはボランティアをあてにしない。
情報	① リユースの仕組みを計量経済モデルとして評価できていない。	① 黒字化可能なビジネスモデルを作る。

（イ）リユースが人々の日常生活の中に取り込まれるための課題と方策

- ・定例会において検討を行った。
- ・人々の日常生活をマーケットとして捉え、課題を挙げ、方策を検討した。

分類	課題	方策（案）
マーケット	① 環境問題としての取組みの必要性が市民に浸透していない。 ② リユースビンを利用することでの環境への影響がわからない。	① 市民へのプロモーション。（行政および関係団体） ② 普及活動（セミナー、見学会）、教育（小中学校）

（４）地方支援事務局への月次報告等

- ・毎月定期的に月次報告を行った。（添付資料 2 参照）
- ・地方支援事務局の要請に応じ、各ステークホルダーがヒアリングを受けた。

（５）３か年の中期計画等の策定

- ・2015年2月7日（土）に開催された、報告会への事前提出資料として、中期計画を作成し提出した。（添付資料 3 参照）

（６）連絡会・報告会への参加

ア．連絡会への参加（全 2 回）

- ・課題の共有、事業の進捗の確認等のため、地方支援事務局が開催する連絡会に参加した。

開催回数	開催年月日	内容	主催者	開催場所	参加者
第1回	2014年 7月24日	・採択団体活動報告 ・意見交換会	EPO 中部	環境省中部 地方事務所	星野和平 水谷政夫 永田秀和
第2回	2014年 9月30日	・採択団体活動進捗報告 ・意見交換会	EPO 中部	環境省中部 地方事務所	星野和平 永田秀和

イ. 報告会への参加（全1回）

- ・本事業における全国の関係者が東京に集まって開催される報告会に参加し、本事業の成果と3ヵ年の中期計画等の発表・共有を行った。

開催年月日	内容	主催者	開催場所	参加者
2015年 2月7日	・事例報告 ・協働分析ワークショップ	全国支援 事務局	シダックスホール (渋谷)	松野正太郎 星野和平 永田秀和

4 評価・分析

(1) 事業評価

ア. 効率性

- ・2008年より既に事業母体ができおり、これまでの実績をベースに事業を遂行することができたため、課題が明確であり、且つ基本となるステークホルダーとの関係性も構築されていたため効率的に事業を実施することができた。
- ・毎月定期的に開催する定例会へのステークホルダーの出席率は高く、効率的に情報共有が図れたため、各種イベントや見学会企画などをスムーズに実施することができ、当日の役割分担も適切に行うことができた。
- ・経費に関しては、課題や実施すべき活動が明確であった点とこれまでの積み重ねがあったため、効率的に活用することができた。

イ. 効果/目標達成度

- ・名古屋市、(株)サガミフード、(株)熊本清掃社、リンコムアソシエーツ(有)など、これまで欠けていた協働主体との連携を実現することができたことで、びんリユ

ースを推進するための今後の活動に大きな弾みをつけることができた。

- ・定例会、体験会及び見学会などを通じて、ステークホルダーや一般市民から意見を聴取することができ、それぞれの立場が抱える課題や市民ニーズについて把握することができた。
- ・新たに飲食事業者や行政職員との連携により、立場の違いによる物の見方及び考え方に関する見識を深めることができた。

ウ. 計画妥当性

- ・(株)サガミフードとの実証実験について、新酒ができる12月を目処に企画提案を行ったが、飲食事業者にとっては宴会シーズンということもあり新たな取り組みに時間を割くことが困難であったことから当初の計画から遅延することとなった。
- ・飲食事業者に対して、本事業に対する理解、共感を得るという点については時間を要さないが、現場サイドでの実践に至るまでにはある程度の時間を要するという課題について把握することができ、今後の事業展開に生かしたいと考えている。

エ. 関係主体の巻き込み度

- ・名古屋市の第五次一般廃棄物処理基本計画の策定に向け、リユースに関する施策について本事業の取り組みを参考にさせていただくため、名古屋市環境局減量推進室との連携を新たに実現することができた。
- ・これまでの取り組みで欠けていた、食品リサイクル事業者である「(株)熊本清掃社」との連携を新たに実現することができた。
- ・さらに、飲食事業者として、地産地消、食品リサイクルに力をいれている(株)サガミフードとの連携も実現することができた。
- ・また、事業を進めるうえで必要な広報戦略について、リンコムアソシエーツ(有)との連携を実現することができた。

オ. 関係主体の満足度

- ・市民においては、セミナーや見学会、体験会において接点を持つことができ、参加者の感想（添付資料 8-3 参照）をみても、本取り組みの対する理解や共感を得ることができた。
- ・名古屋市においては、アンケート調査を実施することで、リユース活動に関する市民の意識を知る機会を得ることができた。
- ・サガミフード(株)においては、従来の本業だけでは得られなかったビジネスパート

ナーの獲得や新規の顧客の獲得に繋がる可能性を得ることができた。

カ. 社会的インパクト

- ・名古屋市と連携して、第五次一般廃棄物処理基本計画の策定に関われる機会を得ることができた。
- ・びんリユースの施設見学を通じて、びんのリユースが障害者の方々の雇用の場となっていることを、ステークホルダー及び参加者と共有することができた。
- ・新たに、この地域でチェーン展開しているサガミグループとの連携を実現したことで、点ではなく面での事業拡大の可能性を得ることができた。
- ・本事業を通して、食品リサイクルの推進に貢献できることで、食品リサイクル事業の活性化につながり、食品リサイクル業に関する雇用の創出に寄与することが可能となる。

キ. 自立性

- ・それぞれのステークホルダーが、個々の企業活動の範囲内で関わり、役割を担っている。
- ・自治体、大学、NPO、プロボノが関わることで横断的に全体をコーディネートすることが可能となっている。
- ・今回の取り組みを通じて、今後の第五次一般廃棄物処理基本計画の策定に合わせ、リユースを推進するための地域の将来像を、自治体と連携して描き、統一された方向性を見出していきたいと考える。
- ・㈱サガミフーズでの実証実験をモデルとし、飲食店・酒蔵・びん商が winwin の関係で事業を展開することが可能となれば、同様のビジネスモデルを他の飲食店にも広げることができ、自立発展的に事業を拡大することが可能となる。

(2) 協働取組の促進要因と阻害要因

ア. 促進要因

- ・「リユース容器入り商品の普及」という事業の成果が、そのままステークホルダーの本業の利益に直結するため、協働するステークホルダーが、意欲的に協働取組に参画することができ、取組が加速化される。
- ・本業を進める延長線上で協働を図れることで、各事業所内部での合意が得られやすく、担当者が積極的に活動に参画できる。
- ・COP21に見られる国際的な環境問題への取組みが活発化されている。
- ・リユースびんを利用した純米酒「めぐる」は海外の日本酒ブームが後押しを受け

ている。

- ・名古屋市の第5次一般廃棄物処理基本計画策定のタイミングであり、リユースに関する具体的な取り組みについて模索をしている。

イ. 阻害要因

- ・ビジネスモデルとして、ステークホルダー間の経済的なコストベネフィットの定量的な把握がなされていないため、成果目標が漠然としている。
- ・リユースびんの普及による、将来的な地域社会像について定量的に示すことができていない。
- ・リユースびんプロジェクトが、商品を製造販売する動脈経済で議論され、廃棄物の処理費などを含めた社会コストを見込んだビジネスになっていない。

5 総括

(1) 成果

本事業の目的は、リユース容器流通の仕組みの拡充とそれを可能とする市民・行政・事業者による協働体制を構築することであった。リユースを協働で支える仕組みの構築について本事業では重点を置いて活動を進めてきたところであり、特に、リユース容器流通に関わる様々な主体の開拓と事業者の本取組への参画の拡大に取り組んだ。この点については、総じて順調に進展し、リユース容器流通の仕組みを構築する上でネックとなっていた、商品の販売主体（上流側）をこの取組に巻き込むことができたことが最大の成果と言えよう。また、このことと同時に、リユース容器の流通の仕組みは社会において維持されなければならない機能であり、この機能がより効果を発揮することができるための政策・方策のあり方を行政（名古屋市環境局減量推進室）と共に検討してきた。この一環として、市民を対象にリユースの仕組みのあり方に関するアンケート調査を実施した。この結果から、今後の名古屋市におけるリユースの仕組みの支援のあり方を提案することができる。

まず、リユースの仕組み（リユースのループ）の構築ができたことについて、要因を述べる。第一に、我々のグループは2008年以来、様々な観点からびんのリユースの仕組みの構築に関する社会実験等を実施してきており、このことに関する解決すべき事項は把握できていたことである。このことに関連して第二に、既にびんのリユースに関する検討のためのテーブルが存在しており、取り組むべき課題が明確であったため、本事業で巻き込むべきターゲットが明確であったことである。このようなことから、本取組に関する基本的な考え方の理解と共有の段階までは、新たなステークホルダーの開拓において順調に進展した。

次に、名古屋市におけるリユースの仕組みの支援に関する政策提案について考察する。名

古屋市民等を対象に実施したアンケート結果等も踏まえると、民間と行政が協力してリユースの仕組みを維持し、行政は積極的な PR や補助金等の経済的インセンティブを創出するという枠組みを整備することが望ましいと言える。国レベルにおいてはびんリユースに関する検討会の開催やモデル事業の実施等を行ってきたが、名古屋市においてはリサイクルに関する施策は活発に実施されている一方で、リユースに関しては啓発する程度にとどまっている。この基本的構造をはじめとして、名古屋市独自のびんリユースに関する経済的手法の導入について提案することとし、その具体的設計については、今後、協働で検討していくべきであると考えている。

(2) 課題・改善点

本事業における残された課題や改善点について整理する。

第一に、「めぐる」を基調としたリユースの仕組みの基本的設計に関する課題である。(1)でも述べたように、新たなステークホルダーの開拓において、特に飲食事業者の参画が可能となったことは本事業の大きな成果であると考えている。しかし、実証実験の具体的な設計の段階においては、当該事業者がステークホルダーの一員として協働で進めていくというより、事業の提案をする側（リユースプロジェクト「めぐる」）と提案される側（飲食事業者）という構図になってしまったため、当該事業者の社内での合意形成に時間を要する結果となってしまった。このことにより、実証実験の開始が約 2 カ月遅れることとなってしまった。今後、多くの事業者との協働体制を構築していくことが不可欠であるが、このためには、協働事業者に当事者意識を強く持っていただき、取組・事業の企画から参画していただき、一緒に考えて進んでいくことである。すなわち、商品開発の段階、或いは原材料の生産段階から、関わって頂くことも必要であると考えられる。

第二に、事業推進上の課題として、消費者たる市民との協働が進んでいるのかという点については検証しきれていないことである。協働事業者の開拓や名古屋市とのリユースに関する施策の協働検討はできたが、それらの受け手である市民の反応を図ることができていない。この点については、実証実験の進展に伴い意識調査等を実施するとともに、市民を巻き込むためのツール・手法の検討・開発を行う必要がある。

(3) 今後の展望

リユースの仕組みの拡大に関する課題の解決に向けた検討・実践のための様々な取組が必要になるのは言うまでもないが、特に我々が取り組まなければならない事項について、今後の展望として記す。まず、市民に対しての取組である。名古屋市民等へのアンケート調査の結果を踏まえると、リユースびんの使用を推進することによりはごみが減り、環境問題の改善に役立つ反面、返却場所が明確でない等、使用後の取扱いに関する技術的な課題が残されているが、使い捨て容器入り商品とリユースびん入り商品とを比較して、価格や品質で同

等であれば、多少の手間がかかってでもリユースびんを選択するという市民の意識が明確にされた。このようなことから、市民に受け入れられやすいリユースの仕組みを行政や事業者と協働で開発し、実現につなげていくことが、市民を巻き込み、協働を推進するために不可欠な事項である。次に、事業者に対しての取組である。リユースはリサイクルの波に押され、厳しい状況に押されるようになって久しい。しかし、地域に目を向けると、酒造業や食品製造業においては環境意識の高まりもあり、新たにリユースに着目をする事業者が出てきているのも事実である。また、小売・販売業においてもリユース容器入り商品のラインナップを拡充したいという声も聞かれる。このような事業者を仲立ちし、リユースのノウハウを提供するコンサルタントの役割を我々が担えるようになっていくことが必要であると考えられる。先にも述べたように、リユースは社会を維持運営し、必要な「モノ」を何度も利用することにより、「モノ」を適切な場所に届けるという機能を有する。このリユースを効果的に機能させるための材料を確保し、メンテナンスを行うことが不可欠である。さらに、どこにリソースがあるのか、どこにニーズがあるのかを俯瞰的に見て、リユースの機能を最大限に発揮できるようにするため各主体との調整を図り、そのための組織を構築していくことが長期的な展望である。